

開祖

豊臣秀次

二十八歳の生涯

戦国乱世の世 秀次公は 時の主人公から 悲運の風に舞い散つた

天正十三年（一五八五）秀次公十八歳の時、近江二十

万石に蒲生、神崎、野洲の三郡と大和国の一郡、更に補に集め、八幡城築城と同時に町の形態を作り上げました。佐役として付属する宿老の封地を含めて四十三万石の大守として八幡城を築きました。

秀次公は廢都となつた安土や近郷の住民を八幡山下町に移し、八幡城築城と同時に町の形態を作り上げました。城は、山城（三峰分岐式完全石城）とし、山腹に設けられた居館地（住居）は東西約三百メートル、南北百メートルの平坦部に安土桃山風の壯麗な殿閣・庁舎・庭園などを設けたと思われます。金箔で飾られた「五三の桐」の瓦などが、その面影を今にとどめています。

城址の現況から推定した城郭には、本丸・二の丸・西の丸・北の丸・出丸が配置され、城壁はすべて石墨をもつて覆われた

一大要塞であつたと推測されます。

天正十四年（一五八六）秀次公の娘と結婚し、十三ヵ条からなる

捷書（八幡山下町捷書）を公布し、住民を手厚く保護しました。

十九歳の時、池田恒興（大垣城主）

の娘と結婚し、十三ヵ条からなる

捷書（八幡山下町捷書）を公布し、住民を手厚く保護しました。

自由商業に希望を与えた捷書と八幡堀動乱期を生きのびた町民への大きな遺産

天正十四年（一五八六）秀次公は、広い造成地に

縦十二筋・横四筋（どころにより六筋）の町の形態が出

来上がるなど旧安土城下などの商人や職人に屋敷地を無償

で貸出し、八幡山下町捷書にある諸役免除（無税）樂市

樂座（自由市場）の特権を与えました。

天正十四年（一五八六）秀次公は、湖上交通に着眼し掘割（八幡堀）の両端を

琵琶湖につなぎ運河としました。そして、湖上を往復す

る荷船は、ここを通らなければならぬと定めました。

また、秀次公は、背割と言われる八本の下水溝（現在の下水道）に匹敵し、日本最古の下水道と言られています）

をつくり生活排水を掘割に流しました。

理想郷の五年間 青春の情熱を注いだ 一大楽天地 八幡城と八幡山下町

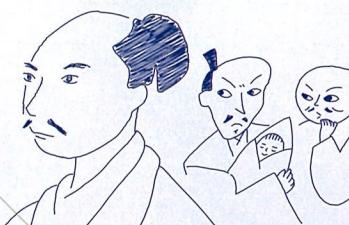
天正十三年（一五八五）十八歳の秀次公は、鶴翼山（八幡山）の頂きに立ち、戦いのない平和

な理想郷を、ここ近江八幡の地に築くことを誓つたのである。

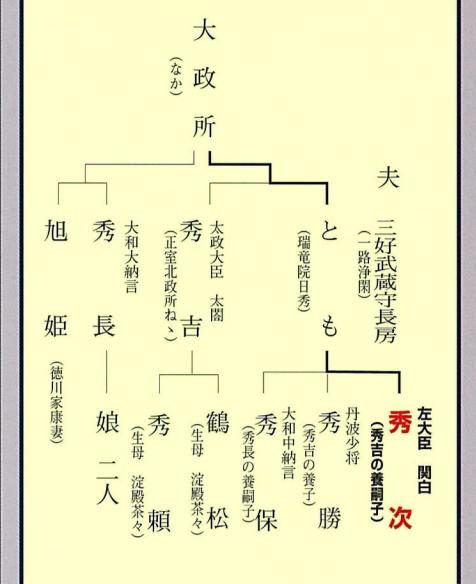
八幡城は、山頂に築かれたため水源に乏しく、籠城できる城ではなく、むしろ秀次公のイメージをクローズアップしたものと推測出来ます。

天正十三年（一五八五）十八歳の秀次公は、鶴翼山（八幡山）の東西と中央に配置し、城下町ではなく城内町としました。秀次公は、戦乱の時代に平和を象徴するような碁盤状のまちを整備することにより、まちの活性化を図り住民と苦楽を共にすることの出来る「まちづくり」を目指しました。

秀次公にとって、八幡城在城は五年間という短い時ではありますでしたが、近江八幡は希望に満ちた安住の地であったではないでしょうか。



所蔵／善正寺 系図



所蔵／善正寺

「近江八幡郷土史研究会 豊臣秀次」より抜粋

二十八歳の生涯

二十八歳	文禄四年（一五九五）	文禄四年（一五九五）	文禄二年（一五九三）	文禄一年（一五九二）	天正十九年（一五九一）	天正十八年（一五九〇）	天正十七年（一五八九）	天正十五年（一五八七）	天正十三年（一五八五）	
二十八歳	七月。謀叛の噂流れる。 同月八日。豊臣家追放・領地公収・聚楽第台下・関白剥奪。 同月二日。愛兒・側妾等が三条河原で斬首される。 秀次の実父・三好一路が讃岐国に流罪され、実母とも（曰秀尼）は上洛して子供達をとむらうために嵯峨に住む。	七月。朝鮮出兵。 同月。父看病のため尾張犬山城越年。	四月。吉野の花見。	二月。帰京。 八月。淀殿が「お拾」（後の豊臣秀頼）を生む。 九月。一時、秀吉との仲が険悪化。 同月。任従二位・内大臣。秀吉の嗣子となり（豊臣秀次）と改む。 同日二十七日、左大臣に転じ、「関白」宣下。	正月。任正三位大納言。 三月。九戸乱鎮圧総指揮。 八月。鶴松病死（3歳）。 九月。乱平定後十月、山形で駒姫を見る。 十一月末、近江八幡領民と袂別し、京都凱旋。 十二月。秀吉隠居して「太閤」となる。 同月。任従二位・内大臣。秀吉の嗣子となり（豊臣秀次）と改む。 同日二十七日、左大臣に転じ、「関白」宣下。	二月中旬。近江諸将を直率して出陣。 三月、箱根（山中城）を陥して緒戦に戦功。 七月。尾張一国並伊勢五郡百万石・尾張清洲城主に転封。同時に奥羽平定総大將拜命し、直ちに奥州路へ向かう。 八月。凱旋。この頃、城・山下町大略完成。 九月。御陽成天皇の聚楽第行幸に供奉。 五月。秀吉に初兒「鶴松」誕生。	十一月。相州小田原城・北条氏直討伐に出陣命令受ける。 三月。近江の諸将を率いて九州島津義久討伐に出陣。 四月頃、池田恒興の娘と結婚。町捷書発布。 十二月。羽柴秀吉が「豊臣」姓を賜う。	三月。近江の諸将を率いて九州島津義久討伐に出陣。 四月頃、池田恒興の娘と結婚。町捷書発布。 五月。秀吉に初兒「鶴松」誕生。	正月。任正三位大納言。 三月。九戸乱鎮圧総指揮。 八月。鶴松病死（3歳）。 九月。乱平定後十月、山形で駒姫を見る。 十一月末、近江八幡領民と袂別し、京都凱旋。 十二月。秀吉隠居して「太閤」となる。 同月。任従二位・内大臣。秀吉の嗣子となり（豊臣秀次）と改む。 同日二十七日、左大臣に転じ、「関白」宣下。	正月。任正三位大納言。 三月。九戸乱鎮圧総指揮。 八月。鶴松病死（3歳）。 九月。乱平定後十月、山形で駒姫を見る。 十一月末、近江八幡領民と袂別し、京都凱旋。 十二月。秀吉隠居して「太閤」となる。 同月。任従二位・内大臣。秀吉の嗣子となり（豊臣秀次）と改む。 同日二十七日、左大臣に転じ、「関白」宣下。